

エコアクション21 環境活動レポート

(54期版)

対象期間：平成27年10月～平成28年度9月まで



㈱九州三共(統括会社)
㈱サンエージェンシー
発行日：平成28年12月20日

I 取組の対象組織・活動

組織の概要

(1) 名称及び代表者名

株式会社 九州三共(統括会社)
代表取締役社長 中島 敬二郎
株式会社 サンエージェンシー
代表取締役社長 中島 敬二郎

(2) 所在地

株式会社 九州三共 福岡県北九州市小倉北区神岳2丁目10番24号2F
株式会社 サンエージェンシー 福岡県北九州市小倉北区神岳2丁目11番13号

(3) 環境管理責任者及び担当者氏名並びに連絡先

環境管理責任者 総務部 行時 孝志
TEL 093-531-4881 FAX 093-531-4903 E-mail info@riviere.gr.jp
環境管理担当者 工務課 大角 真介、工務課 柴田 陸
TEL 093-531-4881 FAX 093-531-4903 E-mail info@riviere.gr.jp

(4) 事業内容

(九州三共)
分譲マンション企画・販売 福岡県北九州市内
賃貸不動産管理 第一三共ビル、第二三共ビル

(サンエージェンシー)
分譲マンション管理・清掃 福岡県北九州市内

(5) 事業規模

分譲マンション販売・賃貸管理 24億円
不動産管理・清掃 9千万円
従業員数 九州三共本社2階19人 販売センター6人
サンエージェンシー本社7人 清掃員7人

延べ床面積 805.41㎡

(6) 事業年度 10月～9月

認証・登録の対象範囲(全組織・全活動)

- ① 対象事業者名 株式会社 九州三共
株式会社 サンエージェンシー
- ② 対象事業所 九州三共本社2階
サンエージェンシー事務所
- ③ 対象活動 九州三共 リヴィエールマンション販売
サンエージェンシー リヴィエールマンション管理組合委託清掃料・管理費

II 環境方針

基本理念

株式会社九州三共グループは人と環境との調和を基本理念とし、それらを大切にす経営姿勢の基に企業活動を行い、環境への負荷低減を積極的に取り組みます。

行動理念

株式会社九州三共グループはマンション企画・販売・管理を中心とした全ての事業活動における環境への影響を理解し、低減するシステムを整備し、運用を行うことで環境関連法規等を遵守します。

また、以下の行動指針に基づき、環境目標および活動計画を定め、定期的な見直しを行い継続性のある活動を展開していきます。

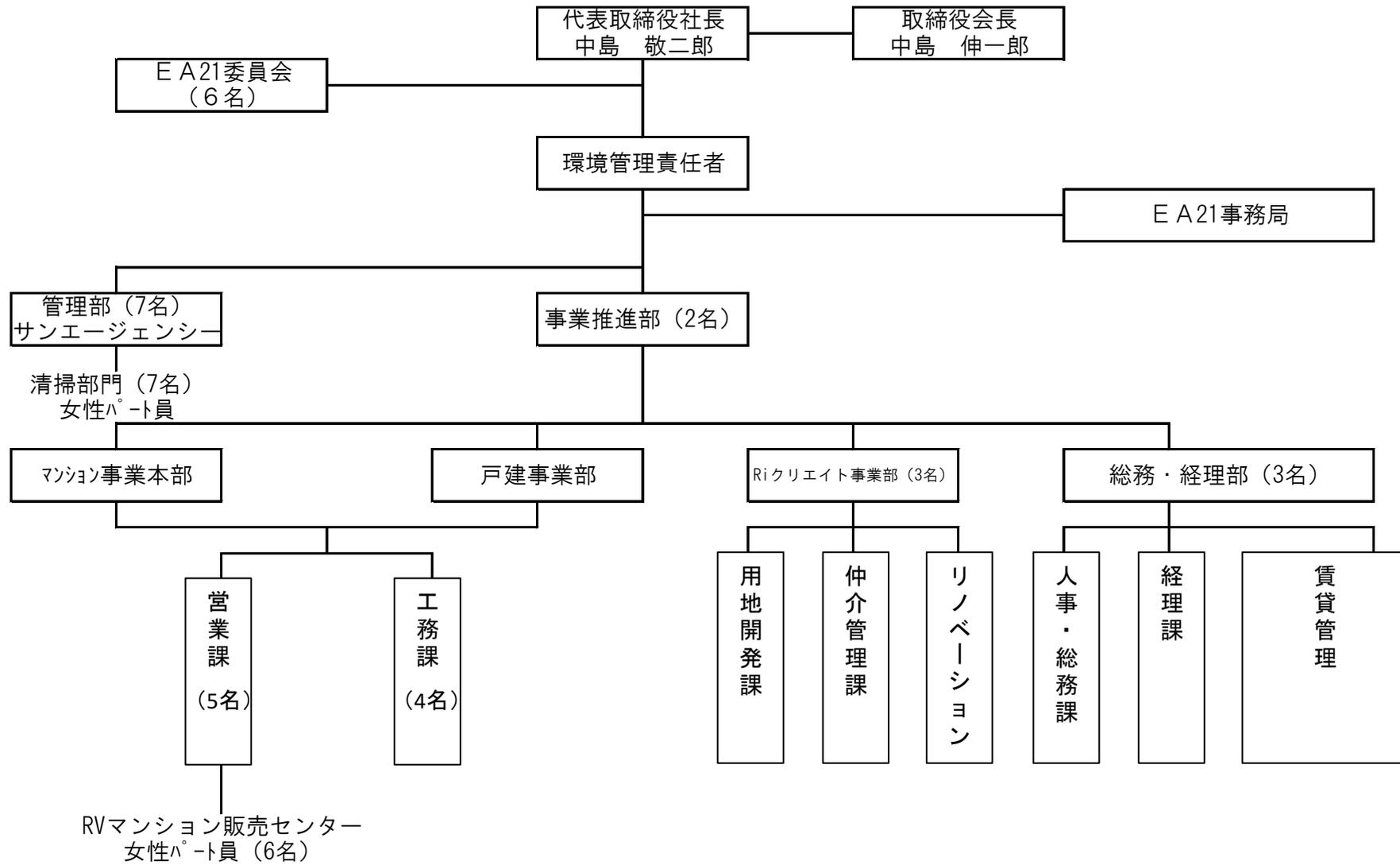
行動指針

1. すべての事業活動において、積極的に「ムダ削除」をおこない、省エネルギー、省資源に努めます。
2. 二酸化炭素の排出を削減します。
節電を励行するとともに、空調の温度もエコ基準に設定を行い、効率的なエネルギー使用を推奨いたします。
アイドリングストップやエコドライブを実施し、ガソリンや軽油の使用量を削減します。
3. 事務所、現場にかかわらず節水に努めます。
4. 化学物質使用の製品に関してはエコ仕様製品の導入を行います。
5. 廃棄物の排出量を削減します。
ゴミの分別を徹底しておこない、リサイクル率を向上いたします。
書類の電子化を推進するなど、紙の使用量の削減をおこないます。
6. 住宅産業を通じて環境負荷の少ない原材料への転換を進めます。
7. 住宅産業を通じて省エネ機器の設置・販売を促進いたします。
8. 住宅産業を通じて環境に良い商品、サービスの採用を進めます。
9. グリーン購入を推進します。
10. 事業活動に関連する環境関連法規や条例等を遵守し、環境保全の向上に努めます。
11. この「環境方針」を全従業員に周知徹底するとともに、研修や教育を行い環境保全にむけた意識の向上に努め、環境負荷の低減に努めます。
12. 地域社会および、関連業者へ当社の環境活動レポートの配布を行い、当社の活動に関して認知を高めます。
13. この環境方針を広く一般に公表を行います。

平成22年9月8日
株式会社 九州三共

代表取締役
中島 敬二郎

Ⅲ EA21実施体制



IV 54期及び中期環境目標

No	環境項目	単位	54期目標		55期目標		56期目標	
			総量	目標 (原単位)	総量	目標 (原単位)	総量	目標 (原単位)
1	二酸化炭素総排出量	kg-CO2	145,932		143,639		140,766	
	電力使用量削減	kwh	120,630	15,079/棟	118,217	14,777/棟	115,853	14,482/棟
	CO2排出量	kg-CO2	73,946	—	72,467	—	71,018	—
	ガソリン使用量削減	L	30,978	8.9km/L	30,358	9.0km/L	29,751	8.8km/L
	CO2排出量	kg-CO2	71,920	—	71,107	—	69,685	—
	都市ガス使用量削減	m ³	31.1	—	30.5	—	29.9	—
	CO2排出量	kg-CO2	66	—	65	—	64	—
	一般廃棄物排出量削減	kg	573	—	562	—	551	—
2	清掃排水量	L	192	24.9L/棟	188	24.9L/棟	184	24.9L/棟
3	住宅産業による省エネ機器の設置・販売促進	戸	50	—	50	—	50	—
4	グリーン購入推進	束	10	—	10	—	10	—
5	再利用の推進	個	12	—	12	—	12	—

※電力排出計数は'13年度版の0.613を用いた

- ※1 化学物質は使用しない。
- ※2 目標数値は電力・ガソリン・排水量を個別平均法により算出(使用量/使用場所数、使用量/使用台数、排水量/清掃棟数)
- ※3 一般廃棄物排出量については販売センターを除き事務所分の計量を実施
- ※4 省エネ機器については計画または設計においてコントロール、可能な物件について導入・設置を実施
- ※5 グリーン商品購入の選定を実施。またコピー用紙等文具品などもエコ商品、リサイクル商品購入推進を実施
- ※6 再利用可能な家具・備品等を次物件のモデルルームに設置し再利用。

V 第54期 主要な環境活動実施計画

1. 二酸化炭素排出量の削減

取組目標	活動項目	活動計画			
		10~12月	1~3月	4~6月	7~9月
1 電気使用量の削減	1 冷暖房温度の適正管理	← 実行 →		← 実行 →	
	2 昼休みの消灯	← 実行 →			
	3 残業時の不要な照明の消灯	← 実行 →			
	4 長時間席を離れる時、パソコン等OA機器の電源OFF	← 実行 →			
	5 OA機器はエネルギー効率の高い機器を導入する	← 逐次導入 →			
	6 照明器具の定期的な清掃交換等適切な管理を行う	← 実行 →			
	7 夜間、休日はパソコン、プリンター等の主電源を切っている	← 実行 →			
	8 使用していない部屋の空調は停止している	← 実行 →			
	9 ブラインドやカーテンの利用等により熱の出入りを調節している	← 実行 →			
	10 空調機フィルターの定期的な清掃	← 実行 →			
	11 冷暖房終了時間前に熱源機を停止し、装置内熱の有効利用	← 実行 →			
2 ガソリン使用量の削減	1 省エネドライブの励行	← 逐次検討しながら実行 →			
	2 配車計画の合理化	← 逐次検討しながら実行 →			
	3 アイドリングストップの励行	← 逐次検討しながら実行 →			
	4 タイヤの空気圧を定期的に確認	← 逐次検討しながら実行 →			
	5 共用自転車の導入	← 逐次検討しながら実行 →			
3 都市ガスの削減	1 給湯器等の効率使用	← 逐次検討しながら実行 →			

2. 省エネ商品の推進

取組目標	活動項目	活動計画			
		10~12月	1~3月	4~6月	7~9月
1 グリーン購入活動	1 製品購入の際できるだけHFC、PFC、SF6を使用しない製品の購入配慮	← 逐次検討しながら実行 →			
	2 環境ラベル認定等製品の優先的購入	← 逐次検討しながら実行 →			
	3 省エネルギー基準適合製品を優先的に購入	← 逐次検討しながら実行 →			
	4 再生材料から作られた製品を優先的に購入	← 逐次検討しながら実行 →			
2 省エネ商品の提供	1 節水型の製品、水洗トイレを積極的に導入	← 実行 →			
	2 製品の長寿命化を指向している	← 逐次検討しながら実行 →			
	3 製品の使用過程でのエネルギー削減を指向している	← 逐次検討しながら実行 →			
	4 有害性の化学物質の含有量を少なくするよう指向している	← 実行 →			
	5 太陽光発電設備の導入	← 逐次検討しながら実行 →			
	6 太陽熱温水器等設備の導入	← 逐次検討しながら実行 →			
	7 建物の老朽化や運用の診断を行い、改善は環境保全設備の見直しを行っている	← 実行 →			
	8 敷地内、壁面、屋上等の緑化	← 逐次検討しながら実行 →			
	9 環境負荷の少ない建築材の利用依頼	← 逐次検討しながら実行 →			

3. 環境教育・活動

取組目標	活動項目	活動計画			
		10~12月	1~3月	4~6月	7~9月
1 環境教育・活動について	1 HP上での環境に関する情報提供	← 検討 →	← 実行 →		
	2 事業活動に伴う環境負荷の主要な目標および環境担当者の連絡先の公表	← 検討 →	← 実行 →		
	3 環境に関する基金・団体支援等の協力支援	← 実行 →			
	4 エコマーク及び、エコ宣言等を製品やパンフレットに表示している	← 実行 →			
	5 外部から製品の環境負荷に関するデータ提供依頼の協力	← 逐次検討しながら実行 →			
	6 環境関連の基金等へのマッチングギフトを実施	← 逐次検討しながら実行 →			
	7 環境に関する基金・団体支援等の協力支援	← 実行 →			

VI 目標の実績

	54期目標			54期実績		
	単位	総量	目標 (原単位)	総量	実績 (原単位)	目達成率
二酸化炭素総排出量	kg-CO2	145,932		138,465		
電力使用量削減	kwh	120,630	15,079/棟	78,884	837.19/棟	153%
CO2排出量	kg-CO2	73,946	—	41,760	—	
ガソリン使用量削減	L	30,978	8.9km/L	38,774	10.36km/L	116%
CO2排出量	kg-CO2	71,920	—	90,651	—	
都市ガス使用量削減	m ³	31.1	—	43.0	21.5m ³	72%
CO2排出量	kg-CO2	66	—	64	—	
清掃排水量	L	192	—	3,547	277.6L/棟	5%
一般廃棄物排出量削減	kg	573	—	966	—	59%
住宅産業による省エネ機器の設置・販売促進	戸	50	—	76	—	152%
グリーン購入推進	束	10	—	10	—	100%
再利用の推進	個	12	—	11	—	92%

※電力排出計数は'13年度版の0.613を用いた

VII 環境目標取組結果とその評価、次年度の取組内容

二酸化炭素排出量の削減

目標に対し大きく削減できた結果となりました。
特に電力使用が低減できた事が要因です。
ガソリン使用量については利用台数が増えた結果、総量増となりましたが、燃費による目標は達成できました。

電気使用量の削減

大きく目標を達成しました。
54期の事業においては、期中に必ずしも必要ではない設備等を早期に撤去してきた結果が表れました。
今後も事業計画に沿い、節電を心がけ使用量削減を目指します。

ガソリン使用量の削減

目標を達成しました。
54期は全員によるエコドライブの推進のため毎月の燃費向上率を社内で発表・掲示し、年間を通じて意識の継続に努めました。

都市ガス使用量の削減

目標を達成できませんでした。ガス利用の湯沸かし器の利用が増えた結果です。従来よりお茶などに関してはウォーターサーバーを導入しているため、利用量は抑えられています。来期は目標に到達するように湯沸かし器の利用時節を設定の上目標達成を進めていきます。

清掃排水量の削減

54期は前期に引き続き洗剤等、防汚剤に加え剥離剤を利用しており使用量の増となりました。節水に繋がるよう清掃の指導を行なうとともに対策として高圧洗浄機使用を増やし利用量を少なくできるよう活動しました。

一般廃棄物排出量の削減

例年同様に印刷・コピーにおいて可能な場合、排出量削減のため裏紙を利用しました。
54期はリサイクルの一環として室内設備の整理を実施しました。

省エネ機器の設置・販売促進

2つの物件において高効率給湯器を標準導入、設置しました。

本社外灯設置においてLED灯を選択・設置しました。

グリーン購入の推進

グリーン商品購入選定を行いコピー用紙・文具等のエコ商品購入を推進しました。

再利用の推進

モデルルーム撤去の際、可能な家具・備品等を引き上げ、次物件モデルルームで再利用しました。事務所内の印刷機インクタンクはリサイクルのためメーカーへ返却しました。

VIII 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

まず、自社で法律の順守状況をチェックした結果、違反はありませんでした。また過去3年間に法令違反および公的機関からの指摘はありませんでした。また、同じく近隣等からの要求、告訴もありませんでした。引き続き環境関連法規遵守の維持に努めます。

IX 代表者による全体評価と見直しの結果

環境方針の誓約は実行されている。

月1回の会議を行い、現状の報告と今後の課題についての話し合いを行い改善や、提案についての話し合いを行い実行している。

また、決めたルールに基づいて社員一同が活動を行っている。

環境活動の取組は社員一同へ十分に浸透し、期中での対応も見られるようになった。

環境活動取組とスローガン募集やエコ活動実施キャンペーンを開催し

活動を奨励、意識向上も図れた。

55期は事業に沿った中で、細やかな活動を推し進め54期の結果に甘んじず

利用量削減を今後も努力を進めていく。